

11月2日(火)

自主研修?

報告: 横川 哲朗 (Aグループ)

本日は当初休みのはずだったのだが、Kuakini Medical Center は営業しているとのことで実習に向かうことになった。鴨川先生、柳川先生、鈴木先生、横川がトケシ教授への所へ、盛先生と反町先生、大谷先生が外科を見学に向かう予定であったのだが、鴨川先生と柳川先生は体調不良でお休みとなり、僕は鈴木先生と二人で向かった。朝は前日同様に早起きし、6:30にER集合。トケシ先生に挨拶し回診が始まった。アメリカの家庭医療の医師であり、ハワイ大学臨床教授であるトケシ先生は博学である。回診途中に院内の休憩所にて松本良順や佐藤泰然、緒方洪庵、伊藤玄朴など日本の医学史についての話が止まらない。1時間ほど医学史のレクチャーが行われた。そして回診、Kuakini Medical Centerにはトケシ先生の患者様が4,5人いてレジデントと一緒に治療を行っているらしい。



その後 Kuakini Medical Center に隣接するビルの中にあるトケシ教授の診療所へ向かった。診療所は個室の診察室が4つと、トケシ先生が結果説明する部屋、検査室、事務員の方の部屋の7つの部屋+トイレで成り立っている立派な診療所である。診察室が個別に4つに分かれているのが特徴的である。それぞれ子供用、小手術用など用途が分かれており、

【トケシ先生の診療所からの風景】

それぞれに患者様に入っていた後、トケシ先生が診察に向かい、診察。そして場所を移して結果説明という流れである。トケシ先生はノートパソコンに入っている電子カルテを使用しており、それには動悸、胸痛、腹痛、便秘、下痢などの問診項目がもちろん英語で記載してある。それを使用して僕たちは承諾の得られた患者様への英語での問診をさせていただいた。また、診察もトケシ先生に方法をご教授頂き、行わせていただいた。眼底鏡や耳鏡を使用した診察もするのであるが、学生時代に形をならっただけの僕は全然ダメであり、文字通り手取り足取り教えていただいた。また、トケシ先生から‘身構えは無構え’、‘心構えは召使い’との医師の理念を学んだ。先生は患者様より目線を低くして話を聞き、患者様一人ひとりの家族の話や趣

味の話などを時間をかけて傾聴していらっしやった。僕は患者様の問診と診察を鈴木先生と交互に行い、結局 16:00 頃まで実習を行っていた。

その後、ホテルに戻り、他の先生の部屋に電話したが誰もいなかった。携帯でだれか探そうにも僕の日本の携帯はハワイなので使えず。ふたりで外食する気力なく、すでに暗くなった町を軽く散歩し、コンビニで買ったクッキーをホテルで食べぐったり就寝となった。